

畑 かん 営 農

わが国における畑作農業の生産性向上のむずかしさは、水利の便が悪く、土壌条件の劣悪な畑地を基盤としているところにある。農民の英知と生産技術の進歩により、それぞれの畑作地帯で適作物が選択され定着してきたが、きびしい自然条件のもとで適作物と目されてきたものであっても、生産が不安定であることは、過去の多くの事例に示されている。わが国における水利利用技術の進歩は、畑作生産の安定化に貢献していることは周知の通りであり、旱害回避、播種・定植の適期作業を図ることが可能となっただけでなく、多目的な水利利用、例えば農薬、液肥の散布、短期間の湛水処理による土壌病害防除、霜害防除など多くの技術開発の可能性が実証されつゝある。また、作物選択の幅が拡大されつゝあることも見逃しえない大きな効果である。畑かん施設の導入により、かんしょ・むぎが基幹作物であった南九州畑作地帯では、さといもを中心とする露地野菜・たばこへと移りつゝあり、かんしょ・らっかせい・りくとう・むぎが基幹作物であった関東畑作地帯でも、さといも・しょうが・すいか・だいこん・はくさいなどの作付比率が高まりつゝある。畑かん営農における集約的作物への転化は、農家経済の面からは好ましい傾向であるが、野菜生産の無制限な拡大は望めないであろうし、野菜作との作季の競合から、むぎなどの禾本科作物が消滅しつつあることは、地力維持資源の枯渇をきたし、畑地生産力の低下を招くおそれがある。畑かん営農にあたっては、水利利用のプラス効果を生かすと同時に、マイナス的影響を如何にカバーしていくかが、一つの課題と思われる。

(農林省農事試験場畑作部長 尾崎 薫)

目 次 (第9巻第4号)

第5回APWSSS会議の	
日本開催にあたって……………	2
＜東北農業試験場 野田健児＞	
・まえがき……………	2
・APWSSSの目的と経過……………	2
・APWSSSの組織、構成……………	4
(アジア・太平洋雑草学会規約) ……	4
・第5回会議日本開催について……………	7
・むすび……………	9
昭和49年度秋冬作芝生関係	
除草剤試験成績概要……………	9
＜財団法人 日本植物調節剤研究協会＞	
・昭和49年度秋冬作芝生関係	
除草剤試験薬剤判定表……………	10
水田の多年生雑草の発生面積一覧表…	15
＜財団法人 日本植物調節剤研究協会＞	
植調協会だより……………	16

お わ び

当誌本号の発行が大変おくれ 読者各位にご迷惑をおかけいたし、まことに申しわけなく存じております。予定していた原稿が集まらず、中途半端な編集で発行せざるを得なくなり、編集子としても心苦しき次第ですが、何とぞご容赦下さい。次号よりは、順調に編集し、発行してゆく所存でありますので、今後とも、ご協力賜りますようお願い申し上げます。